

日	曜	1月の行事予定
1	月	元日
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	冬季休業(終)
8	月	成人の日
9	火	始業式 午前授業(給食なし) B時程
10	水	安全指導 給食(始) 書き初め
11	木	体朝 縦割り班遊び 書き初め
12	金	社会科見学(6年) もちつき(3年)
13	土	
14	日	
15	月	朝 委員会 書写展始 計測(6年) ジョギング週間始
16	火	木村姉妹ピアノコンサート(4年) 計測(5年) 2年生6時間授業開始
17	水	午前授業 計測(4年) 心のアンケート B時程
18	木	集 計測(3年)
19	金	集金日 計測(2年)
20	土	
21	日	
22	月	朝 クラブ 計測(1年)
23	火	
24	水	
25	木	集 租税教室(6年)
26	金	ユニセフ募金 5時間授業(全)
27	土	授業参観 午前授業(給食なし) B時程 (「対話」の場면을重視した協同的探究学習) ユニセフ募金 書写展(終)
28	日	
29	月	朝 クラブ 読書週間始
30	火	
31	水	

※1月の避難訓練は、予告なしで行います。



### 3学期人権目標

THANK YOU

「感謝の気持ちを伝えよう」

「ありがとう」……この一秒ほどの短い言葉に、人の優しさを知ることがある。  
「おめでとう」……この一秒ほどの短い言葉で、幸せにあふれることがある。  
「ごめんなさい」……この一秒ほどの短い言葉に、人の弱さを見ることがある。  
一秒に喜び、一秒に泣く、一所懸命、一秒。  
出典 一秒の言葉(一部抜粋) 小泉吉宏

言葉には、いろいろな意味があります。それはあたりまえのことですが、たった一秒の言葉でも人の心を動かすものがたくさんあります。

ふだん、なかなか言えないこと、伝えられない気持ちがあると思います。ちょっとした一言で周りの人を温かい気持ちにできるといいですね。

そんな言葉があふれる町五になるよう努めていきます。是非、ご家庭でも「感謝の気持ち」をもって接してみてください。

### 1月の生活目標



○学校のきまりを守ろう

○持ち物に名前を書こう



冬休みが終わり、新しい年を迎えました。気持ちを改め町五小のきまりを思い出し、小学校生活を送ってほしいと思います。

また、勉強道具で不足しているものなどを休みにしっかりとそろえられたと思います。各クラス、学校全体での落とし物は、記名が無いために持ち主のもとへ戻ることができず処分されてしまうこともしばしばあります。もう一度、持ち物に記名がされていることを確認して、3学期を過ごすようにしていただければと思います。



### ユニセフ募金活動 書き損じハガキ回収運動

町五小運営代表委員会では、3学期にユニセフ募金活動と書き損じハガキ回収運動を行います。

募金活動は、1月26日(金)、27日(土)の2日間です。

書き損じハガキ回収は、1月26日(金)まで、職員室前に回収ボックスを設置して集めます。ご協力お願いいたします。

学校だより



2018年1月9日 No. 10

町田市立町田第五小学校  
校長 五十嵐 俊子



### 対話で広げる学び～自分と異なる考えとの出会い～

校長 五十嵐 俊子



2018年(平成30年)がスタートしました。  
年明けの空は、雲一つない澄み切った青空でした。子供たち一人一人の輝く笑顔が見られる年になるよう、願いました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

先日は学校評価アンケートにお答えくださりましてありがとうございました。98%という回収率の高さを、大変にありがたく思います。自由記述欄には、先月の学校便りでお知らせした来年度の教育課程について、ご質問やご感想をいただきました。裏面にQ&Aの形でまとめましたのでご覧ください。

アンケートの中に、「校長先生に相談したいことがあるのですがよろしいでしょうか。」というご質問がありました。電話で事前にご連絡の上、どうぞお気軽にいらしてください。開かれた校長室を心がけております。



左上：化石博物館として賑わった先月の校長室風景  
右上：笑顔の挨拶であふれる朝の校長室風景

今年度、町五小では、子供たちに対話する力を付けることに取り組んでいます。職員室に入ってくる子供たちの姿は礼儀正しく、いつも感心しています。「失礼いたします。〇年〇組の〇〇です。〇〇室の掃除をするのでカギをとりに来ました。」

しかし、授業中の発言には課題があります。「〇〇さんの意見に賛成です。そのわけは～」等々、いわゆる型(話型)を学び、型通りに表現することを基本としてきたため、スピーチや発表も同様に型に沿っています。だからこそ、型から抜け出す次の学びが必要です。このままでは形式的で一方的な学びに終わってしまいます。

そこで、次のステップとして、対話の機会を設けるようにしています。「自分の考えを人に伝えたい！」という気持ちが強くなった時、型通りではなく自然と型が破られ、自分なりの表現が生まれます。そして自分とは異なった考えに出会うことで、自分の考えが変わったり、新しい考えが生まれたりします。また、なかなか合えられないので共通点を必死に探し合うこともあります。こういう機会を通して学びが広がっていくと考えています。対話が進むような学びの環境として、タブレットや、ミニホワイトボード等の対話ツールを用意し、自分の考えを表現したり、多様な考えを見比べたりしやすくなるように工夫をしています。2月9日には、町田市の研究推進校としてこの研究を発表し、これからの教育を提案していきます。



今年度は、国語を中心に教科の授業の中で対話の機会をとるように取り組んできました。対話の主たる相手は、ある程度気心が知れた友達です。来年度は、さらに教科横断的な総合的な学習の時間等で、学校の外で他者と関わる体験を通して、対話の機会を多くとり、学びを深めていきたいと考えています。

子供たちが生きていく未来は、グローバル化が一層進んでいくことでしょう。多様な価値観、自分とは異なる文化や歴史をもつ人々とともに、正解のない課題、経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代だと言われています。「控えめで、人の気持ちを察する文化をもつ日本人としての良さ」をもちながらも、しっかりと自分の意見をもって、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に行動できる対話力と強さを育てていきたいと考えています。